

## 巻頭言

日本アプライド・セラピューティクス学会は、2009年4月に発足したばかりの学会で、医療を受ける者に対して安心・安全かつ良質な薬物治療を提供することを目的に、薬物治療に関して、評価、研究、普及、教育などの活動を行っています。これらの活動を通じて、科学的で合理的なエビデンスのみならず、患者の価値観に基づいた薬物治療の推進とその薬物治療を担う医療者の確立を医師、薬剤師を中心に目指したいと考えて活動しています。

現在、我が国の医療の状況は、病院においては、医療費算定のDPC（診療群分類別包括評価方式）化への流れの中で、患者の治療を適正に進めるための最適な医薬品の選択および用法・用量の設定などが、経済性を考慮に入れて求められています。一方、地域医療においては、病一診連携を通じて、がん化学療法あるいは緩和医療などにおいて、在宅医療の重要性が増加し、患者の病状に加え生活全般を理解した上での、よりきめ細かい合理的、経済的な薬物治療を進めていくことが望まれています。さらには、薬局薬剤師においては、セルフメディケーションの普及に伴い、一般用医薬品、補助的非薬物治療の適切な選択なども、その重要性が増し、大きな課題になっています。さらに医療用医薬品、一般用医薬品を問わず、また、補助的非薬物治療を含め、「患者のQOLを改善するために明確な結果を示す薬物治療が遂行する」ために、医師、薬剤師が薬物治療に関して評価、研究すること、また、我が国の医療において、安心、安全かつ良質な薬物治療が実践されるため、医療システムを含めた諸課題を検討することが学会の活動方向と考えています。

第1回日本アプライド・セラピューティクス学会学術大会「パンドラの箱を開けようー我が国における薬物治療の諸問題と将来への展望ー」は、学会の設立目的を具体的に推し進めるための一歩として、我が国の医療に根源的で、且つ、具体的な問題提起を行いました。参加者は440名を越えて盛大に行われました。学会内容の一部を特集号として本号に掲載しています。皆様のお役に立つ学会誌になっていると考えます。また、第2回日本アプライド・セラピューティクス学会学術大会が平成23年4月23日（土）・24日（日）の両日、明治薬科大学総合教育研究棟フロネシスにて「パンドラの箱を開けようーPart2～医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進～」をテーマに開催する運びとなりました。次回の学術大会は、平成22年4月30日に厚生労働省医政局からの通知である「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」を受けて、医師と薬剤師の協働・連携とその役割分担について議論し、医療を受ける者に対して安心・安全かつ良質な薬物治療を推進できるよう考えられています。この機会もぜひご参集いただければ幸いです。今後の学会の発展を期待すると同時に、学会に寄与できればと考えています。

聖マリアンナ医科大学病院薬剤部  
増原 慶壮